

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500198		
法人名	株式会社 ほんじょう会		
事業所名	みどりの郷 ほんじょう		
所在地	大分県佐伯市本匠大字笠掛1589番地1		
自己評価作成日	令和7年3月10日	評価結果市町村受理日	令和7年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=4490500198-00&PrefCd=44&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	令和7年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○新型コロナウイルスが令和5年5月から「5類感染症」となり間もない為、地域性を活かせる様な活動はできないが、今年度より区長さんをお願いをし回覧板にてGH新聞を地域の方々に見ていただこうと思っています。(内容としては、利用者様個人個人に合わせた有する能力を取り入れた自立支援の様子等)
○利用時に合わせその方の有する能力を活かした支援への取り組み(自立支援委員会と共に作成)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな場所に立地しており職員も地元の人が多く、入所者にとって住み慣れた地域で介護が行われています。アットホームで家庭的な雰囲気作りで、季節の行事を取り入れ気分転換が図られ、地域住民に見守られ楽しくのんびりした生活が来ています。行政との関わりも深く地域との繋がりが強い様子が伺え、職員は研修会参加に意欲が感じられ、情報共有に心掛けホームは就業環境の整備に努め、利用者へのサービスの向上に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の変更はしていないがGH独自の基本姿勢を作成し毎朝職員全員で唱和している。	管理者・職員は、地域密着型の役割を考えコミュニケーションを大切に、支援する事を心掛け、日々の中で常に情報共有をするよう努め利用者のよりよい生活を支えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和5年5月に新型コロナウイルス5類になったとはいえ、交流は行えていないが、今年度よりGH新聞を回覧板にて見て頂く予定です。	地域の情報は、区長等が参加する運営推進会議を活用し、防災訓練等に積極的に参加されています。少しずつではありますが、地域との関わりなど新たな部分の取り組みが伺えます。	利用者の、現状の生活維持や重度化防止のために、外出の機会を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員体制の不安もあり行えていない状況です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	GH内での看取り支援を行った時や不穏な利用者様の対応で苦慮していることなど話し合いの中で報告し評価やアドバイスを頂いている。	2ヶ月毎に6名の委員で開催され、ホームの近況や地域の情報交換が主な議題となっており、防災に関して利用者の生活状況等の共有に努め、自己評価・外部評価の実施状況を報告、意見を双方向での取り組みが行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	粗暴な利用者様の対応で困った時など包括支援センターの担当の方に相談をしアドバイスをいただいている。	介護保険や生活保護法など関連する法律改正や支援の中で、困難事例が発生した時など、介護保険係や地域包括支援センター等、行政との連携がスムーズに行われている様子が伺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GHでは委員会を毎月行い個人チェック表を基に拘束をしていないかの確認をしている。日中、玄関は常に開いているが、内鍵は多動な方の安全の為、閉めている。	毎月の委員会開催で、グレーゾーン・不適切な支援を行う事がないよう配慮され、本人本位の対応に取り組みがなされています。利用者に関わる精神的リスクに伴う行動を、制限しない方法を検討し支援に取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に一度、運営推進会議の役員さんにも身体拘束・虐待防止に関する適正化委員となってもらいGH内の現状報告をして一緒に問題を考えて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	書面研修にて意識を高めてもらい虐待の芽を出さぬよう、安心して生活ができる支援を心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書や重要事項説明書となるべくわかりやすく説明を行うように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置や年に一回の家族会を行い、意見、要望などを聞いている。	家族に、些細な事でも言ってもらえるようコミュニケーションを図り、日頃の表情や雰囲気から何か話したい事がありそうであれば、積極的にアプローチを行い、話しやすい環境作りに取り組まれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が何でも言える環境づくりを心掛けている。提案したことは意見は先ず反映出来るような取り組みをしている。	身近な利用者の支援者としてのケア等のアイデアを大切に、職員間の日々のコミュニケーションや個別相談など、働きやすい環境づくりとして、職員の希望を出来る範囲で反映するよう取り組みがなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課と面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	書面研修だけでは足りていないと思っています。実技が伴わない職員が多くなっている気がします。実技研修が必要だと思っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2年間介護認定審査委員として同業者との交流は行っていた。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前の情報と入居されてからの状況が違う場合が多い為、入居1ヶ月は本人様と寄り添いながら聞きとる様努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居1週間は、本人様の生活の様子を電話にて報告、相談を行っている。変化があればご家族の意向などを聞きながら慎重に支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の際など、ケアマネージャーやソーシャルワーカーとも連携をとり、自施設的环境や状況をしっかりと伝え、入居ありきではなくあくまで選択肢の一つとして提案や相談をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時に自立支援委員会を含めて利用者様の有する能力を活かした生活支援を作成し行っている。 役割をもつことで「必要とされている」気持ちをもっていただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況をみながらガラス面会や直接面会を行っています。その時にご家族に生活状況を報告する様に心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員不足ということで馴染みの場所に行くことはできませんが、個々に合わせて馴染みの場所の話をする様にしています。	重度化に伴い外出支援は、厳しい部分もありますが、職員は地元の方が多く、利用者や家族の気持ちに寄り添い、相談しながらホームで出来る支援を行い関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	物品呼称(知育カード使用):ゲーム、ソファ席のとなり同士で考えるゲームなどにてコミュニケーションを取る様工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去等にて退去された方のご家族も今だに広告で作ったゴミ入れなどを持って来てくれています。又、他の方ですが「父が入居していましたが、今度は母を」とご相談もありました。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	軽度認知症の方は会話の中で思いや希望等を把握はできますが、重度の方の場合は非言語的コミュニケーションの中で思いや自分がしたい事等を見つけ出す努力をしている。	日々の観察やコミュニケーションを通じ、利用者の細微な変化に気づけるよう配慮され、利用者の思いや変化を情報共有し、担当職員が対応出来る環境に、取り組みがなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて職員全体に回覧しその情報を共有し把握できる様にしている。 又、生活している中で見出した事も付け加え支援に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や業務日誌、申し送りノート、朝夕の申し送りノートにて現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と自立支援委員が中心となり、ご家族、本人、担当職員と相談をしながら作成している。	利用者の変化や気づきを職員間で情報共有し、本人本位の介護計画が作成されています。家族の意向を取り入れ、思いに寄り添えるよう取り組みがなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や業務日誌、申し送りノート、朝夕の申し送りの中で利用者様への生活の様子を把握し気づき等あれば話し合いをもち支援につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族の時間(アニバーサリー)は大切な行事と思いますので柔軟な対応を心掛けたい。 それがご家族、利用者様の喜びであり楽しみだと思います。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに保育園がある為、園児達が施設内の庭の池の魚を見学に来ることがあります。その時に「こんにちは」「バイバイ」等の言葉をかわしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医をなるべく継続できる様支援を心掛けています。医師との連携も介護要約や電話にて行い適切な支援ができています。	利用者・家族の希望するかかりつけ医となっています。主治医と施設との連携を常に取り、利用者の適切な医療支援に取り組まれています。必要時は家族の協力を得ながら支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療中心、介護中心ではなく、常に看護と話し合いをもち、その人らしさを失うことのない様判断をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間は定期的に状態確認の為電話にて話を伺っている。退院前には面会をお願いし状態確認を行っている連携室とのつながりは部長、部長代理が行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを希望されるご家族には十分な話し合いのもと受け入れをしている。施設でのできる事できない事の説明を行いご家族も共有しチームで取り組んでいる。しかしご家族の気持ちが変わる場合もありその時にはご家族の気持ちに寄り添いながらの支援を心掛けています。	入所時、施設として出来る事の説明をし本人・家族の希望を最優先に支援される体制を整えています。利用者に寄り添い、本人・家族・主治医・施設と協力しながら、その人らしい終末期への支援に取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを看護師と作成しており全員把握に努めています。マニュアルの見直しはその方の症状により異なることがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の場合の地域との協力体制は築けていないが、区長さんや民生委員さん、駐在所のお巡りさんとは協力をお願いできる体制ではある。	定期的に避難訓練をされています。様々に想定され消防署の協力を得たり、地域の方へ協力を要請することにより、取り組まれています。今後は実際に訓練をしながら協力体制を築かれることを希望されています。	出来るだけ早く、地域の方とより強く協力体制が築かれる事を希望します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様1人1人のアセスメントをしっかりと把握し、その情報を職員間で共有し、その方に適した声掛けを行っています。	職員全員で定期的に研修が行われ、日頃から利用者の気持ちに寄り添った処遇に、取り組まれています。常に利用者の様子を共有し、支援を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いは大切にしています。日中、利用者様と話をする時間を設け、その方の希望等を聞きとり可能な限り叶えられる様努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで1日を過ごしていただいています。1日のどこかで自立支援の時間を入れています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の散髪日があります。服を選べる方は入浴前に自分で準備をしていただき、選べない方は服装が偏らない様配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍期間以降、外食もできなくなり思う様に楽しむこと(レク)ができなかったが、昨年の夏に夏まつりをし出店の様な屋台でたこ焼きや焼きそば等を楽しんだ。今年も行う予定です。	職員が、献立から調理までされる食事支援となっています。季節のものや希望される食事を献立に反映され、日頃からとても充実した食事となっています。イベント食も楽しんで頂けるよう工夫しながら取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の摂取量の確認は確実にしている。一定より少なめの方への支援を滞ることなく行えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず職員付き添いのもと行っている。自力でできない場合は職員が一部介助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、利用者様の排泄リズムを把握し支援を行っている。 重度の方は動きながら見極め誘導をしている。	職員全員で定期的に研修が行われ、日頃より利用者の気持ちに寄り添った処遇に取り組まれています。常に利用者の様子を共有し、その方に沿った支援を心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便に努める様にしている。運動量や水分量のチェックはしている。 排便-2日からはマグミットにて調整し、-3日以降は緩下剤を使用している。(Dr.に相談)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状、職員不足の為、希望やタイミングを叶えることはできていない。	利用者が、気持ちよく安心して入浴を楽しんで頂けるよう個々の様子に添った支援をしています。施設内で収穫したゆずでゆず湯を楽しんで頂いたり、工夫しながら入浴支援に取り組まれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り日中の運動やレクリエーションの時間を設け、安眠につなげる様支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、個人個人の服薬内容を把握し適切な指示を出している。 体調不良時には医師と相談をしながら対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者1人1人の有する能力を活かし、清掃の手伝いや洗濯物たたみ等役割を決めて支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然豊かな本匠での生活の中ですので外浴を兼ねての散歩は行っています。 3月4月5月は施設のバスにてバスハイクに出かけている。(桜やアイスクリームを食べに)	日常的な外出支援に、柔軟に対応され支援されています。季節の花や景色を楽しんで頂くため、バスで外出されその先々でおやつを楽しんで頂いたり、利用者を楽しんで頂くよう様々に工夫しながら支援されています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	残念ながらお金の理解が難しい利用者様が多い為、買い物支援はできていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の支援は行えていませんが、電話でご家族と話しをする支援は行えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや食堂には季節に沿った絵(利用者様が色塗りした)や工作物を展示し季節がわかる様に工夫をしている。 トイレは日に2回掃除をして清潔を保っている。	利用者が安全・安心に季節感を感じながら居心地よく過ごして頂ける支援に、取り組まれています。掃除等利用者も一緒に出来る事への支援を工夫しながら取り組まれています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人様のペースに合わせ生活をしていただいているので、日中は利用者様同士で話し合ったり、新聞を読んだり、昼寝をしたりと自由を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自分の部屋と同じ様な空間をとっているので以前は位牌を持ち込んでいた方もいらっしゃいました。	家族の協力を得ながら、家族の写真や家電等馴染みの物を持ち込み、安心・安全に居心地よく過ごして頂ける居室づくりに、取り組まれています。温室管理も様々に工夫しながら取り組まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには張り紙をし、利用者様が迷わない様に配慮し常に使用する物は場所を変えない様にする様心掛けています。		